

令和6年度 多摩市立鶴牧中学校 学校評価書

学校教育目標	
・創造性に富み、実行力ある生徒 ・心身ともに健康で活気に満ちた生徒	・自他敬愛の心を持ち、奉仕する生徒
目指す学校像（学校経営ビジョン）	
・生徒の充実した学びを実現するとともに、豊かな心や健やかな体を育む学校 ・グローバル化する社会の中で活躍できる資質や能力を育む学校 ・保護者から信頼され、我が子を通わせたい学校 ・教職員が明るく活気にあふれ、働き甲斐のある学校 ・地域と協働し、信頼・協力を得ながら、体験活動を通して主体的に学べる学校	
目指す子供像	目指す教師像
・主体的に考え、学んだことを実生活に生かそうとする生徒 ・自他の生命を尊重し、心豊かで思いやりのある生徒 ・自らの健康や体力に関心を持ち、向上を目指して行動できる生徒	・生徒理解に努め、分かる授業を実践する教師 ・組織の一員としての自覚を持ち、行動する教師 ・保護者や地域と連携して教育活動を行う教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	分かりやすい授業づくりに取組むとともに、学習した英語を実践的に活用する力の育成を図る。			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員 の意見
【生徒アンケート】 各教科の授業がわかりやすい (92%以上)	4	1年生90.8%、2年生90.4%、3年生94.3%、全学年全教科の平均値92.0%が肯定的な回答であった。	A	・学習については全体的に熱心に取り組んでいる様子 がうかがえる。 ・全体的に高い水準にあり、 目標を達成している。 ・特色ある取組として継続している。内容がもう少し保護者にも伝わるとよい。
【全国学力調査】 平均正答率が全国平均値を上回っている(10%以上)	4	国語、数学の2教科の平均正答率は、全国の平均正答率よりも12.7%高くなった。	A	
【保護者アンケート】 ESD(国際理解教育)に関する教育活動が展開されている(年3回以上)	3	ワールドキャンパスとの交流や国際理解授業、TTGGなど外国人との交流活動を実施した。保護者の肯定的評価は83.9%であった。	B	
評価のまとめ	・分かりやすく、生徒が主体的に参加できる授業を目指し、引き続きICT機器の効果的な活用や対話的・協働的な学びの一層の推進を図ることが大切である。 ・英語の学習を実践的に生かす機会を設けるとともに、特色ある教育活動に主体的・積極的に参加する生徒を今後も増やす工夫をしていくことが重要である。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	お互いの個性を尊重するとともに、生徒にとって楽しく、いじめのない学校づくりを目指す。			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
【生徒アンケート】 学校に通うのが楽しい (94%以上)	2	肯定的評価の生徒は87.0%であり、前年度から7.3%低下した。数値を高めるよう取り組む必要がある。	C	・全体の数値としては低くないが、前年度比では、若干低くなっている。受験がストレスとなっていることもあるのではないか。 ・校内での取組をこれまでよりも広く知ってもらうようにした方がよい。 ・サポートルームではどのようなことを行っているのかを知ってもらうとよい。
【保護者アンケート】 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる(90%以上)	2	肯定的評価が76.4%、わからないという回答が17.2%であった。今後も継続して取り組む。	C	
【統計調査】 不登校の生徒の減少に向けて取組む (前年度から出現率を減少させる)	3	サポートルームの設置などの取組の継続により、不登校の出現率は前年度とほぼ同程度の水準となった。	B	
評価のまとめ	・「学校に通うのが楽しい」と100%の生徒が答えられる学校づくりを目指す。 ・校内での取組など、更なる情報発信に努めるとともに家庭との連携を密に行うことにより、肯定的評価の回答率の上昇、「わからない」という回答率の低下を図る。 ・不登校の出現率を低下させられるよう、これまでの取組にさらに工夫を加えていくことが重要である。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	自らの健康や体力に関心をもつとともに、学習した内容を日常生活等の場面で積極的に活用しようとする態度を育む。			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評価	現状の分析と改善策	評価	学校運営協議会委員 の意見
【生徒アンケート】 運動やスポーツをもっとしたいと思う (80%以上)	3	81.7%の生徒が肯定的な回答であったが、前年度より2.7%上昇した。男子平均は 89.7%女子平均は 72.4%であった。	A	・個人の考えや能力の問題も大きく関与していると思われる。女子にも活発に運動をする生徒もいる。 ・朝食を食べている生徒の割合が高いことは評価できる。家庭での考えもある。 ・学校の指導というところもあるが、学年の集団や、個人の能力によるところも多い。
【保護者アンケート】 生徒は朝食をきちんと食べている (95%以上)	3	94.3%の生徒が肯定的な回答をしている。逆に食べない生徒も5.4%おり、減らしていきたい。	B	
【体力テスト】 体力テストの各学年の指標が前年度を上回った(前年度比プラス)	2	前年度との比較は、女子：1年生↓2年生↑3年生＝、男子：1年生↑2年生↓3年生＝であり、トータルでは前年度より若干下回るものの、ほぼ同程度であった。	C	
評価のまとめ	・運動等への興味・関心は2極化の傾向が見られる状況が続いている。運動する習慣があまりない生徒に対して、興味をもたせたり、意義や効果を理解させたりしていく必要がある。 ・家庭の教育力の高さにより、朝食をきちんと食べている生徒の割合は高い。食育や家庭科等の授業を通してその大切さを伝え、割合をさらに高めていきたい。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	学校連絡協議会や地域学校協働活動推進本部を始め、様々な団体と協力し、学校教育の質的向上を図る。			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
【参加生徒数】 水曜サプリや TTGG、TED などに積極的に参加した(延べ 900 名以上)	3	水曜サプリや TTGG、TED など国際理解教育に関連する、特色ある教育活動への延べ参加生徒数は約 800 名であった。	A	・特色ある活動を継続している。小学校で英語の取組を経験した子供が入学するので継続していくとよい。
【保護者アンケート】 学校だよりやホームページ等で情報を積極的に発信している(93%以上)	4	肯定的評価が96.7%であった。現在、学校だよりや学年だよりを紙媒体で配布しているが、電子媒体での配布が課題である。	A	・ホームページは、毎日一定のアクセス数がある。今後も発信を続けていけるとよい。
【実施回数】 地域や関係機関を講師とした取組を展開する(各学年学期1回以上)	3	セーフティ教室や講演会、笑顔と学びのプロジェクト、ダンス講習、国際理解授業など外部と連携した取組を計画的に実施した。	A	・厳し目に評価が続いている印象がある。予定どおり実施できているのであれば、標語は4でもよい。
評価のまとめ	・地域の方々や大学と連携した英検の取得に向けた学習活動や英語による外国人等との交流活動は今後も継続し、取組内容を発信していくなどして、参加者数を少しでも増やしていきたい。 ・地域や外部機関等と連携し、生徒が体験的に学ぶことは有効である。各学年、学期に1回以上を目安として、今後も取組を充実させていく。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<p>＜学校経営の方向性＞</p> <ul style="list-style-type: none">・授業において、ICT機器の効果的な活用や対話的・協働的な学びの充実を図る等の取組を通して、主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、思考力・判断力・表現力を向上させ、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させる。・生徒が主体となる学校生活を目指し、体験的な活動や生徒会活動等の充実を図り、お互いを理解し、尊重する態度を育むこと等により、いじめや暴力がなく、楽しく生活できる学校づくりに取り組む。・健康や体力に関心をもち、向上を図ろうとする態度を育てる。・国際理解教育や防災・減災教育、環境教育等を中心に、ESDを推進するとともに、SDGs の達成を目指して、創造的に取り組もうとする態度や能力を育む。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">・不登校生徒の減少を目指し、組織的・計画的に取り組む。・令和 7 年度は引き続き大規模改修工事を行うが、教育の質の維持・向上に努める。

以上のとおり報告いたします。

令和7年3月3日

多摩市立鶴牧中学校 校長

森 田 剛

公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立鶴牧中学校